
悲劇のメモリー

烏哭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悲劇のメモリー

【Nコード】

N7743F

【作者名】

烏哭

【あらすじ】

何年ぶりに開いた日記に書かれていた悲しき事件の詳細と告白。それを見つけたとき、4年前のことが明確に思い出される。

FILE0（前書き）

見て不快になる可能性高いです。

FILE 0

夕刻に蝶が飛んでいた。見たこともないような色をしている。僕がそんな蝶を見たのは二回目だった。

今日3月23日、僕は自分の部屋を整理していた。今年から僕は大学に通うため都心の方へ引っ越すことになっているからだ。そして自分の机を整理していると、奥のほうに見慣れないノートを一冊見つけた。

「なんだろ？これ。」

自分で仕舞い込んだノートのはずなのにまったく覚えていない。それどころか、何を書いたのかも覚えていない。

『まあ、中を見ればわかるか。』そんな軽い気持ちでノート開いてしまった。

ここでそんな気を起こさず、ゴミとしてそのまま捨てていれば思い出さずに済んだのかもしれない。あの悲劇を……。僕が友達を失ったあの事件のことを。

ノートの中身は日記だった。

たった二週間程度しか書かれていないようだった。しかし、たった二週間の内容なのにノートの半分を使っている。そしてその内容は、僕にあの事件の事を鮮明に思い出させた。

「どうして、忘れてたんだろう。……」

僕はもうノートを見たくなかった。

でも、ノートを見なくてもほぼ完全にあの事件の事を思い出していた。そして、一度思い出すと頭から消えず、ずっと頭にこびりついて離れなかった。忘れたくないけど、思い出たくない悲しい記憶を。

もう4年も前の話になる。僕の通っている学校の女生徒が一人、学校で死体で発見された。当時は新聞にまで載り、大変騒がれた。結局、事件は警察の捜査で早期解決し、事故として処理された。

でも、僕は知ってる。あれは事故じゃなかった。彼女は『殺された』
ということ。．．

そうだ。あの日も今日みたいに変な蝶が飛んでいた。

FILE0（後書き）

文章力無くてすみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7743f/>

悲劇のメモリー

2010年11月18日06時11分発行